

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03502

研究課題名(和文) 明治期図画手工教科書データベース構築に向けた総合的調査研究

研究課題名(英文) Integrated Research for Database Construction of Drawing Textbooks in the Meiji Period

研究代表者

赤木 里香子 (Akagi, Rikako)

岡山大学・教育学研究科・教授

研究者番号：40211693

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、明治期の図画手工教科書に掲載された図様の画像データベースを構築し、web上での公開を通して、日本の近代化過程における美術教育の展開について包括的な理解を得られるようにすることを旨とした。新たな様式である西洋画が普及する際、流通した部数の圧倒的な量から見て、教科書以上に影響力を持ったメディアはあるまい。その重要性を認めた収集家による目録が研究者のみに知られていたのに対し、本研究は複数の目録を統合した報告書の刊行とフリーワード検索が可能な画像データベースの試験的な公開により、明治期の日常生活で見られる事物や当時の美意識に触れるための貴重なイメージソースを、多くの人々に開かれたものとした。

研究成果の概要(英文)：Through building a web-based database of images printed on school drawing textbooks in the Meiji era, this research aims at getting a whole understanding of the world of art education in the modernizing days in Japan. In the spread of a new style of westernized drawings and paintings, no other media is more influential than drawing textbooks because the number of distributed copies was far larger. Appreciating the significance, some seekers have collected original materials, the availability of which is, however, recognized only by a small number of researchers.

As for the database open to public, two features can be emphasized. First, its specification is designed for easy expansions of contents, and some major collectors agreed to integrate their catalog into the database. Secondly, the image database implies more probabilities to be welcomed by researchers in wider fields, since the images in the Meiji-era textbooks are full of materials for representing the daily life at the time.

研究分野：教科教育学、美術科教育、美術教育史

キーワード：美術教育史 図画教育 手工教育 データベース 教科書 画手本 鉛筆画 毛筆画

1. 研究開始当初の背景

(1) 臨画の手本として出版された明治期図画手工教科書の書誌情報がまとまった形で公にされた例としては、山形寛『日本美術教育史』(黎明書房, 1967年)掲載の「教科書一覧表」と、倉田三郎監修、中村亨編著『日本美術教育の変遷 教科書・文献による体系』(日本文教出版株式会社, 1979年)が挙げられる。これらに先立ち、東京書籍株式会社附設「東書文庫」や国立教育研究所(現・国立教育政策研究所教育研究情報センター教育図書館)、国立国会図書館ほか、主要な所蔵先のデータから作成された『教育文献総合目録第3集 明治以降教科書総合目録(1.小学校編, 2.中学校編)』(小宮山書店, 1967年)がある。だが、そこに含まれないものが存在することは、山形、中村らが自らのコレクションを根拠にすでに指摘していた。

その後、山形蔵書は筑波大学に寄贈されて山形文庫となり、中村蔵書は横浜美術館に寄贈され、中村文庫として目録も作成された。このような経緯から、公立および大学附属の図書館、各地の資料館・美術館・博物館等の受贈・収集活動の成果に目を配り、最新所蔵状況を調査する必要が生じた。

(2) 1994年、元東京都図工教諭の末武芳一氏により『美術教育資料 末武文庫目録』が刊行されたことは、総合目録作成への大きな一歩となった。2011年には、株式会社サクラクレパス相談役西村二郎氏が、多年にわたり収集したコレクション 3000余点を東京学芸大学と大阪教育大学に寄贈した。

研究代表者赤木は、末武氏、西村氏から私家版目録および重複資料の寄贈を受けたことを契機に、既存の情報を統合するとともに、新たな調査結果を付加し、複数の所蔵機関を横断的に検索しうる図画手工教科書総合データベースを構築したいと考えるに至った。

また、山形の調査で三重県一志郡久居町教育委員会所蔵と報告された一群の資料は、元来は昭和戦前期に活躍した銅版画家西田武雄が蒐集したもので後に橘忠助氏に譲渡されたことが、研究分担者角田により 2011年に報告された。同資料は現在、角田が所属する神奈川県立歴史博物館に収蔵されており、詳細な調査を即座に実施できる状況となったことが、本研究開始の背景である。

2. 研究の目的

(1) 明治前期の図画・手工科は文明開化を支える技術修練や科学的認識の前提を形成することを期待され、西洋に依拠したその内容を全国的に展開するうえでは鉛筆画教科書が大きな役割を果たした。一方、明治中期の毛筆画教科書には、伝統的価値観と西洋文化に触れたことによる新たな美意識との混在がうかがえる。こうした多様性に富む明治期図画手工教科書の総体は、未だ詳らかにされていない。

そこで本研究では、それらの全容解明と画像データベース構築に向けた総合的調査と書誌情報の整理に取り組み、資料の一部についてはデジタル画像データ化を実施する。劣化が進行する資料の保存と活用に加え、図画工作・美術科教育の成立要因を多角的に捉え直すことも意図している。

(2) 本研究のもうひとつの具体的な目標は、デジタル画像データ化した資料をもとに、誰もが閲覧しうる画像データベースを構築し、試験的に運用することである。各所蔵機関において、目録作成はある程度進められ、上述のように私家版の目録も数種作成された。しかし、これらを手し活用できたのは一部の研究者にとどまり、所蔵先に赴き資料を実見することにはさらに高いハードルがあった。

画像データベースの公開は、資料の魅力を不特定多数の人々に伝えることができる点で、美術教育史研究だけでなく、美術教育全般、さらには他分野に資することが期待される。少なくとも図画手工教科書という出版ジャンルが、かつてこれだけ豊かなイメージ・ソースを発信していたという事実は誰の目にも明らかになるだろう。まずは資料群の存在そのものを強くアピールしたい。

(3) 本格的なデータベース公開は将来の課題となるが、国外における同様の研究は、本研究にとって重要な指針となる。現在、ドイツのミュンヘン中央美術史研究所とルートヴィヒ・マクシミリアン大学を中心に進められている研究プロジェクト Episteme der Linien. Theorien und Praktiken von Zeichnen und Zeichnung : 1400-2000 (線のエピステーメー 描画と素描についての理論と実践 : 1400-2000年)の一環として、ハイデルベルグ大学図書館の web サイトにおいて、約 150 タイトルの画手本・図画教科書類のデジタル画像データベースが公開されている (<http://zeichnenbuecher.uni-hd.de>)。そこには絵画的内容のみならず製図や建築に関する資料も含まれ、近世・近代そして現代の西欧社会で「描くこと」を学ぶ意味がどのように捉えられてきたのかを解明する重要な手がかりを与えるものとなっている。このような動向に対応し、国際比較研究の礎とするためにも、近代日本の図画手工教科書の画像データベース整備は必須である。

3. 研究の方法

研究期間は3年である。初年度には全国調査ならびにドイツでの調査を実施し、目録作成に向けたデータ収集を開始する。また、画像データベース構築と活用に関する先行研究を検討するとともに、研究代表者・分担者らの所属機関が所蔵する資料のデジタル化に着手する。次年度には、欧米での調査と資料のデジタル化を継続し、そこから見えてくる研究成果の報告等を行う。最終年度には、報

告書の刊行を目指して目録を整備し、試験的なデータベース作成と公開を試みる。

具体的な方法としては、以下のような手順で進めた(各項目末尾の括弧内は担当者名)。

(1) 明治期に日本で刊行された、初等・中等・高等教育機関を対象とする図画・手工教科書を中心に、その存在あるいは出版の記録を洗い出し、書誌情報と所蔵先を明らかにした。所蔵の可能性のある機関に対して図画手工教科書の所蔵状況を確認し、新たにデータ化することも試みた。まとまった所蔵があることが判明している機関については、既存の目録等を精査してデータを整理した。これらはデータベース構築のための基礎調査である。(赤木、金子、角田)

(2) 先行研究として注目したハイデルベルグ大学図書館による画像データベースについて、先述したドイツの研究プロジェクト Episteme der Linien のメンバー Tobias Teutenberg 氏(ルートヴィヒ・マクシミリアン大学所属)とメールで情報交換を継続する。2016年1月には、同図書館で開催中の画手本・図画教科書類の展覧会 Punkt, Punkt, Komma, Strich - Zeichenbücher in Europa ca. 1525-1925(点, 点, コンマ, ダッシュ: ヨーロッパのドロ잉本, 1525-1925年)にて現地調査を行い、明治初期の鉛筆画教科書との比較研究に関する資料を収集した。さらに2016年8月末から9月にかけては、トロント(カナダ)、ニューヨーク州オスウィーゴ(アメリカ合衆国)において、ヨーロッパからイギリスを経由して北米に伝播し、日本にも影響を与えた図画教科書や指導法に関する調査を行った。(赤木、山口)

(3) 研究代表者・分担者の所属機関等が所蔵する資料について、デジタル画像データ作成に取り組んだ。撮影用機材を充実させたうえで、1タイトルにつき全冊全頁を撮影し、一枚一枚の画像がどの教科書のどこに位置するものか、画者は誰か、モチーフや描画材、版種は何かといった情報を持たせるデータ処理を行った。各教科書の体系に沿って画像を見るだけでなく、別の教科書と比較しながら見ることができるような検索システムの構築を、データベース設計業者との協働によって目指した。2018年3月末までに報告書の刊行準備を進め、あわせて岡山大学情報統括センターのホスティングサービスを利用し、画像データベースのサンプル版を公開した。(赤木、角田)

4. 研究成果

(1) 2015年度より着手した明治期図画手工教科書の所蔵調査は、未調査の機関等も残され、完了したとは言いがたい。対象となる教科書群の数量は想像以上に多く、遺憾ながら、最終的にすべての内容の精査には至らな

かった。このような反省点もあるが、既存目録の整理と統合は、ある程度まで進めることができた。

特に研究分担者金子により、1886(明治19)年から1900(明治33)年までの小学校検定教科書、それ以降の中学校検定教科書の発行状況が明らかにされたことは大きな前進であり、従来の断片的な情報では捉えきれなかった教科書群の全体像解明に向けた着実な成果と考えられる。

(2) 当初の計画以上に、国際的な研究交流を深める機会に恵まれた。

2015年、ドイツのプロジェクトが刊行した図書 *Lernt Zeichnen! : Techniken zwischen Kunst und Wissenschaft* に、研究代表者赤木と研究分担者山口が依頼を受けて執筆した論文 *Drawing Education in the Late 19th Century: The Case of Japan* が掲載され、2016年10月末には同プロジェクトによる招待を受けて、ミュンヘンで開催された国際シンポジウム *Drawing Education Worldwide!* に参加し、同論文に基づく発表を行った。

発表内容は、19世紀後半の日本の図画教育史に関するものである。特に、ドイツで創始されたペスタロッチ式の工夫画(inventive drawing)と呼ばれる図画教育法が、オスウィーゴ師範学校に留学した高嶺秀夫によって日本にもたらされたこと、五姓田塾で洋画を学んだ岡山出身の松原三五郎が、自ら作成した図画教科書に工夫画を取り入れ、実物写生への基礎段階と位置付けたことを論じた。

同シンポジウムのプロシーディングは2018年に刊行される予定である。同書には、明治末期から大正期にかけて、一般の青少年が絵を嗜むようになる過程で、図画教科書を含む視覚メディアが果たした役割について考察した論文を寄稿した。

(3) 2018年3月より公開中の「明治期図画手工教科書データベース(サンプル版)」のURLは <http://dista.ccsv.okayama-u.ac.jp> である。

2017年度より株式会社 ENU Technologies とシステムの設計について相談を開始し、画像データを体系的に整理しながら、どのようなデータベースにするかを具体的に検討した。ひとまずプラットフォームを完成させることを優先したので、サンプル版で使用したのは図画教科書22タイトル分2300点余りの画像にとどまる。順次、撮影済み画像データを処理し、収録件数を拡大する予定である。

トップページには、挨拶文とフリーワード検索窓のほか、「書名」「著者・编者・校閲者・監修者」「発行者/発行者」「出版年月日」についての選択肢が並んでいる(図1)。この選択肢から画像を閲覧することができる。

フリーワード検索により、モチーフで画像を探すことも可能である。現時点では何もヒットしない場合も多いが、たとえば「花瓶」

で検索すると、複数の教科書から「花瓶」に分類された画像7点が並び(図2)。

その中から見たい画像のサムネイルをクリックすると、詳しい書誌情報が表示される(図3)。画像の下のファイル名をクリックすると、さらに大きな画像が表示され、細かいところまで見ることができる(図4)。



図1 トップページ



図2 「花瓶」の検索結果



図3 画像についての書誌情報

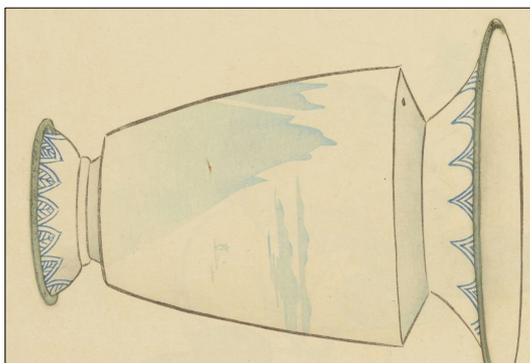


図4 高精細画像(部分)

以上のように、同じモチーフの画像を一覧しやすくなることから、収録件数拡大とともに、複数の教科書間の引用・被引用関係や影響関係がおのずと明確になる可能性が高まった。また、明治期の子供や青少年の作品が臨画によるものである場合、モチーフから手本となった教科書を探し出すこともできる。本研究を進める過程で実際に、明治10年代前半に少年層の人気を博した投稿雑誌『穎才新誌』の表紙に掲載された鉛筆画の一部が、当時の図画教科書『図法階梯』を手本としたものであることが確認できた。

ただし、本システムの検索性および一覧性、画像をカテゴライズする際の分類基準については、まだ解決すべき問題が多い。モニターによる意見等を集約して、より使いやすいものとなるよう、今後も検討を重ねていく。

(4) 2018年3月末、本研究の成果の一部として、研究代表者・分担者による論考4編と資料編からなる報告書を刊行した。

論考は「5. 主な発表論文等」掲載の[雑誌論文] および[図書] の再録のほか、赤木が2017年秋に岡山県の高梁市成羽美術館で開催された「児島虎次郎作品新収蔵記念近代日本洋画の歩み 山岡コレクションとともに」展に際して行った記念講演「洋画を学んだ人々 西洋絵画との出会い」の講演録、角田による書下ろしの論考「橘忠助氏旧蔵美術資料群の図画教科書コレクションについて」を含む。

資料編は、教育令や美術史上の動向を踏まえた「明治期美術教育史関連年表」、12タイトルを影印で掲載した「主要図画教科書画像総覧」、検定以前および検定を受けたものについて現在わかる限りのタイトルを網羅した「明治期図画手工教科書目録」からなる。今後は教科書検定を受けなかった画手本や参考書類をも視野に入れた調査を行い、不備を補っていきたい。

(5) 研究成果公開のもうひとつのかたちとして特筆されるのが、ワークショップや展示である。

角田の企画によって2015年秋に開催された「没後100年 五姓田義松 最後の天才」展(神奈川県立歴史博物館主催)に関連して、明治期の鉛筆画教科書を活用したワークショップ「鉛筆で描く 正確に描く」が開催された。計2日間で延べ200人以上を教えた一般参加者が、初めて明治期図画教科書の存在を知り、強い興味を抱いたことが確認できた。

同様に、先述の高梁市成羽美術館での「近代日本洋画の歩み」展において、1871(明治4)年に刊行された最初の鉛筆画教科書『西画指南』や1887(明治20)年前後の浅井忠、小山正太郎、松原三五郎らによる鉛筆画教科書を展示し、小山、児島らの鉛筆による風景写生と比較できるコーナーを赤木の依頼で設けていただいたところ、興味深く鑑賞する

来館者の姿が見られた。明治期図画手工教科書の画像データベースに対する一般的なニーズが十分あることが予測されるとともに、展示においてモノ本体が持つ魅力が再発見されていることもうかがわれた。

神奈川県立歴史博物館で角田の企画により、2018年8月4日(土)から9月30日(日)まで開催される特別展「明治一五〇年記念 真明解・明治美術ノ増殖する新メディア 神奈川県立博物館五〇年の精華」においても、図画手工教科書展示コーナーを開設する予定である。これもまた、本研究の成果公開と位置付けることができる。

今後はデータベースの充実を図るだけでなく、実物を見る、実際に制作するといった感覚に直接働きかける活動を通じて、子供から大人まで、多くの人々に、明治期図画手工教科書とその宇宙の魅力に触れていただけるよう、研究を継続していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

金子 一夫,「現代美術教育学研究の問題点とその解決 贈与交換論による美術教育の再定義を通して」,『美術教育学美術科教育学会誌』,査読有,第38号,2017,179-191.

大内 優貴・金子 一夫,「阿弥陀来迎図の鑑賞教材化研究」,『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』,査読無,66巻,2017,101-115.

金子 一夫,「近代日本における佐賀県の中等学校図画教育」,佐賀大学美術館『佐賀の美術教師たち 地方画壇の成立と美術教育者』,査読無,巻号なし,2016,4-16.
片口 直樹・金子 一夫,「沈黙交易・贈与交換の概念による,美術教育実践の解釈と構想」,『五浦論叢』(茨城大学五浦美術文化研究所紀要),査読有,第23号,2016,89-103.

金子 一夫,「植田竹次郎『臨画帖』と岡倉覚三 その実質的編輯者と内容の構成をめぐって」,『五浦論叢』(茨城大学五浦美術文化研究所紀要),査読有,第23号,2016,25-50.

金子 一夫,「フェノロサ『美術真説』明治十五年」,『教育美術』,査読無,第77巻第6号,2016,60-61.

金子 一夫,「戦前期検定図画教科書一覧(2)大正・昭和期」,『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』,査読無,65巻,2015,35-46.

金子 一夫,「戦前期検定図画教科書一覧(1)明治期」,『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』,査読無,65巻,2015,15-34.

〔学会発表〕(計8件)

赤木 里香子,山口 健二,金子 一夫,角田 拓朗,「明治期図画手工教科書データ

ベース構築に向けた総合的調査研究(2)」,美術科教育学会第40回滋賀大会,2018.

金子 一夫,「美術教育のシステム論的再定義」,美術科教育学会第38回静岡大会,2017.

赤木 里香子,山口 健二,金子 一夫,角田 拓朗,「明治期図画手工教科書データベース構築に向けた総合的調査研究」,美術科教育学会第39回静岡大会,2017.

金子 一夫,「大阪府立堂島高等女学校での上田南嶺の日本画指導について」,美術科教育学会第39回静岡大会,2017.

金子 一夫,「戦前期全校中等学校図画教員の総覧的研究 北海道」,大学美術教育学会第55回北海道大会,2016.

AKAGI, Rikako, YAMAGUCHI, Kenji, The Evolution of Drawing Education in Modern Japan: Influences of Indigenous and Introduced Cultures, Drawing Education: Worldwide!, International Conference, 2016.

金子 一夫,赤木 里香子,「図画教科書一覧と画像の宇宙 発行図画教科書と全画像の解明」,美術科教育学会第38回大阪大会(美術教育史研究部会),2016.

赤木 里香子,金子 一夫,「五姓田派と明治期図画教科書 松原三五郎を中心に」,美術科教育学会第38回大阪大会(一般研究発表),2016.

〔図書〕(計5件)

赤木 里香子,金子 一夫,角田 拓朗,山口 健二,岡山大学大学院教育学研究科芸術系教育講座赤木研究室・神奈川県立歴史博物館,『科学研究費研究成果報告書平成二十七~二十九年度 基盤研究(B) 明治期図画手工教科書データベース構築に向けた総合的調査研究』,2018,288.
時得紀子編,時得紀子,赤木 里香子,森弥生,他19名,三元社,『芸術表現教育の授業づくり 音楽,図工・美術におけるコンピテンシー育成のための研究と実践』,2017,99-119.

Maria Heilmann, Nino Nanobashvili, Ulrich Pfisterer and Tobias Teutenberg (Hrsg.), Rikako Akagi, Kenji Yamaguchi et al., Dietmar Klinger Verlag, LERNTEICHNEN! Techniken zwischen Kunst und Wissenschaft: 1525-1925, 2015, 151-167. DOI: 10.11588/artdok.00003621

角田 拓朗編,中央公論美術出版,『五姓田義松史料集』,2015,579.

角田 拓朗,三好企画,『絵師五姓田芳柳・義松親子の夢追い物語』,2015,172.

〔その他〕

ホームページ等

明治期図画手工教科書データベース(サンプル版) 2018年3月より公開中

<http://dista.ccsv.okayama-u.ac.jp>

一般向け講演会

赤木 里香子,「洋画を学んだ人々 西洋絵画との出会い」,高梁市成羽美術館「児島虎次郎作品新収蔵記念 近代日本洋画の歩み 山岡コレクションとともに」展 記念講演, 2017, 11月12日(日)実施.

展示

高梁市成羽美術館「児島虎次郎作品新収蔵記念 近代日本洋画の歩み 山岡コレクションとともに」展において図画教科書展示コーナー開設, 2017, 9月16日(土)~11月26日(日)実施.

一般向けワークショップ

「鉛筆で描く 正確に描く」 神奈川県立歴史博物館特別展「没後一〇〇年 五姓田義松 最後の天才」関連企画, 2015, 10月11日(日), 11月1日(日)実施.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

赤木 里香子 (AKAGI, Rikako)
岡山大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号: 40211693

(2) 研究分担者

山口 健二 (YAMAGUCHI, Kenji)
岡山大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号: 90273424

金子 一夫 (KANEKO, Kazuo)
茨城大学・教育学部・特任教授
研究者番号: 70114014

角田 拓朗 (TSUNODA, Takuro)
神奈川県立歴史博物館・主任学芸員
研究者番号: 80435825